

【津久見市】1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

子どもたちの多様化が進むなかで、児童生徒1人1人に応じた指導・支援がより必要になっている一方、教員不足等により学校教育を担う人材は限られており、ICTを有効に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

1人1台端末の整備と通信ネットワークの整備より、すべての学校で情報活用推進体制が整った。

一方で、教員間の利用頻度の差、運用面での業務増加等、ハード、ソフト両面での課題が発生しており、利活用を進めるにあたり、解決を図る必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末を配備し、日常的な活用を推進してきたことで、「自分の考えや意見を分かりやすく伝える」「友達と考えを共有したり比べたりする」「友達と協力しながら学習を進める」など、様々な学習場面において、1人1台端末は児童生徒にとって有効なツールとなっている。

また、教員にはこれまで以上に子どもの成長や悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められるため、以下のようにタブレット等を効果的に活用していく必要がある。

- ・教育データに基づく児童生徒の実態把握、実態に応じた指導の個別化にデジタルドリルを活用する。
- ・授業支援ツール等を活用した他者参照による児童生徒同士での学び合い等、主体的な学びを推進する。

なお、教員が不足するなか、個別最適な学びを行うにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することが重要である。

